

バス乗務員不足に対応する地域交通共創プロジェクト

応募様式A

バス×乗合タクシー共創プラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	琴参バス株式会社
事業実施地域	坂出市
共創の類型	官民共創 ・ 交通事業者間共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	商業 ・ 地域
共創パートナー	坂出市・坂出市地域公共交通活性化協議会、乗合タクシー事業者、ハローズ坂出林田店、王越ささえ♥隊
運行形態	①路線バス・乗合タクシー（AIデマンド交通） ②道路運送法第4条
運行主体	琴参バス株式会社、乗合タクシー事業者(未定)

現状・課題

(地域交通の現状・課題に関する分析)

- ・坂出市の東北部(王越、松山、林田地区)では路線バス王越線が平日1日当たり15.5往復(木沢行き9.5往復、青海行き6.0往復)運行しているが、人口減少に伴いバス利用者也減少していることに加え、全国的に問題となっているバス乗務員不足が深刻化し、路線バスを維持することが困難となっている。
- ・地域公共交通計画策定時のアンケート調査において地域の主な買い物先となっているハローズ坂出林田店への公共交通によるアクセスが悪いことに加え、路線バス王越線の起点であるJR坂出駅付近の商業施設の一時休業に伴い、地域の高齢者等の買い物が困難となっている。
- ・古くからのバス利用者が高齢化し、特に山側に住む高齢者にとって自宅からバス停までの移動が困難となっている。

地域公共交通計画への位置づけ
(位置づけ予定を含む)

有

運輸局・運輸支局への事前相談

四国運輸局交通企画課

令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無

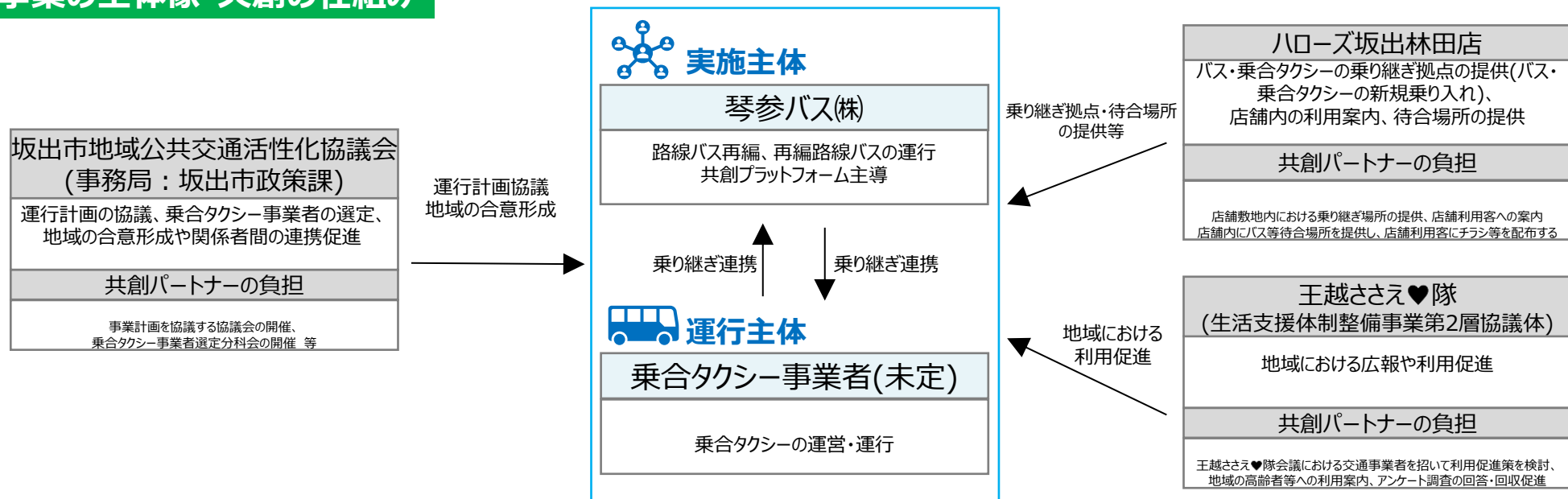
無

バス乗務員不足に対応する地域交通共創プロジェクト

応募様式A

バス×乗合タクシー共創プラットフォーム

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

(事業の概要)

- ・バス乗務員不足という課題に対して、乗合タクシー事業者との連携により、地域の輸送手段を確保する。
- ⇒乗務員不足による路線バス王越線(木沢行き・青海行き)の減便・一部廃止に伴い、路線再編と乗合タクシー運行で、運行頻度を確保。
- ・公共交通利用にあたってネックとなる乗り継ぎを、地域住民がよく利用するスーパーに拠点を設定したり、AIデマンドシステムでスムーズにすることで解消する

(地域の関係者との連携・協働)

- ・地域の買い物先であるハローズ坂出林田店との協働により、利用にあたっての乗り継ぎ抵抗の解消や地域の買い物支援につながる効果が期待できる。
(新規に店舗敷地へのバス乗り入れに加え、バス待合場所の提供やチラシ等配布協力で、利用環境向上と利用促進に寄与する共創)
- ・地域の福祉的な協議体である「王越ささえ♥隊」との連携により、地域の高齢者に新たな乗合タクシーの利用方法等を効果的に周知できる。
(チラシやアンケートの配布協力、民生委員や婦人会による地域の高齢者等への口コミ広報、協議体へ交通事業者を招いての利用促進策の共同検討 等)

(地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性)

既存の路線バスを再編して、各交通事業者の合意のもとで路線バスと乗合タクシーを連携させることにより、持続可能な形で、地域の輸送手段を確保する取り組みである。

バス乗務員不足に対応する地域交通共創プロジェクト

応募様式A

バス×乗合タクシー共創プラットフォーム

事業実施手順・スケジュール

○6月～7月

- ・関係者間での情報共有や協議のうえ、事業計画について、坂出市地域公共交通活性化協議会において協議
- ・乗合タクシー乗降場所新設に関する地元協議
- ・乗合タクシーの運行事業者を選定(交付決定後に契約、運行許可申請)

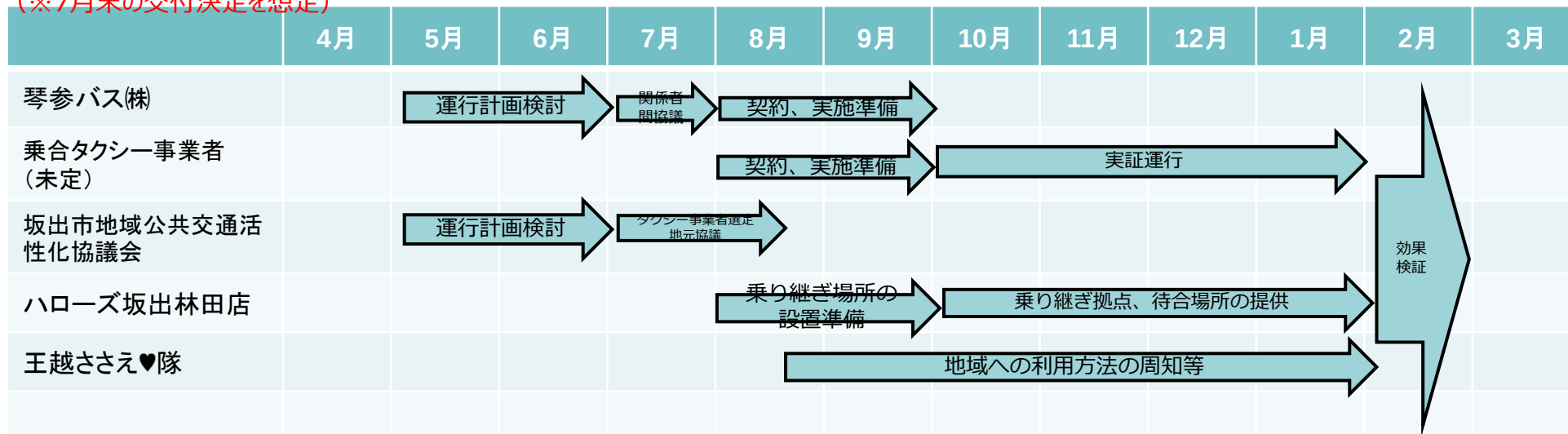
○8月～9月

- ・AIデマンドシステム事業者との契約(交付決定後)、システム開発(カスタマイズ)
- ・バス事業者・タクシー事業者間の連携推進
- ・ハローズ坂出林田店における、路線バス・乗合タクシーの乗り継ぎ拠点の設定
- ・利用方法の周知等

○10月～2月

- ・実証運行開始(10/1～1/31)
- ・坂出市地域公共交通活性化協議会における実証事業の効果検証(1月)

(※7月末の交付決定を想定)



バス乗務員不足に対応する地域交通共創プロジェクト

応募様式A

バス×乗合タクシー共創プラットフォーム

取組の詳細

（地域交通にもたらされると想定される効果）

- ・路線バス乗務員不足という課題に対して、タクシー事業者と連携することで地域の輸送手段が確保される。（路線バス平日1日：9.5往復⇒路線バス＋乗合タクシー平日1日：計10往復）
- ・バス・タクシーの連携の取り組みが促進され、限られた輸送資源の中で、地域にとって最適な乗合交通が構築される。

（地域全体に及ぶと想定される効果）

- ・買い物利便性向上（王越地区からハローズ坂出林田店への直通便1往復⇒5往復）（これまで道路脇での乗降だったところ、新規に店舗敷地に乗入れ）
- ・バス停までの移動距離の緩和（現状バス停に加えて、乗合タクシー用の乗降場所の設置）により、公共交通を利用しやすくなる。
- ・地域団体との共創により、地域が主体的に公共交通を確保維持していく仕組みづくりができる。

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

○	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上		貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備		通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

（補助事業実施後の予定）

- ・共創事業による実証運行終了後も、坂出市補助により実証運行を継続予定
- ・効果検証後、坂出市補助による本格運行を検討する。

資金面	共創補助受領後の不足する費用について、坂出市による補助を検討（協議中）
人材面（運転手の確保）	当該実証事業自体が、バス乗務員不足をタクシー事業者で補うという取り組みである